

令和 5 年 6 月 8 日現在

機関番号：24405

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2018～2022

課題番号：18H03117

研究課題名(和文) 心理教育を応用した精神障害者向け地域生活セルフケア支援モジュールの開発と検証

研究課題名(英文) Development and verification of a psychoeducation-applied community life self-care support module for mentally handicapped persons

研究代表者

松田 光信 (Matsuda, Mitsunobu)

大阪公立大学・大学院看護学研究科・教授

研究者番号：90300227

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 5,400,000円

研究成果の概要(和文)：本研究の目的は、心理教育を応用した精神障害者の地域生活セルフケア支援モジュール(以下、支援モジュール)を開発することであった。その過程では、[研究1]訪問看護実践の実際と地域生活支援の過不足の明確化、[研究2]心理教育を応用した支援モジュール(精神障害者のセルフケアを8領域のテーマに分類して作成)の開発、[研究3]訪問看護実践における支援モジュールの有用性の検討を行った。支援モジュールの有用性検討は、精神障害者に対応可能な訪問看護ステーションに所属する看護師を対象として、定量的データを収集し解析した。結果、開発した支援モジュールは看護師の仕事意欲向上に有用であることが示唆された。

研究成果の学術的意義や社会的意義

開発した支援モジュールの意義は、精神科訪問看護師が限られた時間と回数の訪問場面で、必要な支援をタイムリーに提供する際のツールになり得る、精神科訪問看護師が支援モジュールを活用することにより、精神科訪問看護そのものの質向上に繋がる、精神障害者が適切なセルフケア支援を受けることにより、安定した地域生活を継続することができる、という3点である。

研究成果の概要(英文)：The purpose of this study was to develop a psychoeducation-applied community life self-care support module for mentally handicapped persons (support module). In the process, we clarified the actual state of home nursing practice and excess or deficiency in community life support [Study 1], developed a psychoeducation-applied support module (prepared by classifying mentally handicapped persons' self-care into 8-field themes) [Study 2], and examined the usefulness of the support module for home nursing practice [Study 3]. To examine its usefulness, quantitative data were collected from nurses belonging to home nursing stations where the management of mentally handicapped persons is possible (stations), and analyzed. The results suggested the usefulness of the support module for improving nurses' motivation to work.

研究分野：精神看護学

キーワード：精神科訪問看護 心理教育 精神障害者 プログラム開発

1. 研究開始当初の背景

精神科平均在院日数は漸減傾向にあるが、退院 6 ヶ月後の再入院率は 3 割に上り入退院を繰り返す患者の多さが社会的な問題となっている。地域で暮らす精神障害者が良質な地域生活を送るには、服薬継続のみならず、生活リズムの調整、他者との良好な関係の維持等、生活全般にわたり主体性を尊重したセルフケア支援が不可欠である。このセルフケア支援をモジュール化し心理教育を応用して展開することができれば、その時々に必要な支援をタイムリーに提供することが可能となり、精神障害者の QOL 向上に貢献できると考えられた。

2. 研究の目的

本研究の目的は、[研究 1]訪問看護実践の実際と地域生活支援の過不足を明確化し、[研究 2]心理教育を応用した支援モジュールを開発した後、[研究 3]訪問看護実践における支援モジュールの有用性を検討することであった。

3. 研究の方法

[研究 1]では、訪問看護実践の実際と地域生活支援の過不足の明確化するために、ステーションに勤務する看護師を対象にしたインタビューを実施した。その結果を基にして、現行の訪問看護実践における地域生活支援の内容の過不足を明確化した。

[研究 2]では、[研究 1]の結果及び関連文献を基にして、精神障害者のセルフケアを 8 つの行為に焦点化して作成した支援モジュールと支援モジュールの活用方法を簡潔に解説した支援モジュールの活用手引きを作成し、ステーション管理者の協力を得て内容妥当性検討を行った。

[研究 3]では、ステーションに勤務する看護師を対象に、支援モジュールの活用方法を解説する研修会を実施し、その有用性を検討した。研修会は集合教育と個別教育で構成し、有用性の評価は一般性セルフ・エフィカシー尺度 (general self-efficacy scale; GSES)、看護師の仕事意欲測定尺度 (佐野・山口、2005)、及び独自の質問項目による定量的データを基に行った。データ収集時期は、研修会前、研修会后、1 か月後の 3 時点とし、いずれも web 調査システムを用いて行った。

4. 研究成果

ここでは、[研究 3]に協力した対象者のうち、欠損値のない 15 名を分析対象とした (「表：研究協力者の概要」参照)。分析結果の概要については、表の「各尺度の 3 時点における得点の変化」に示す。本研究によると、支援モジュールの活用方法を解説する研修会は、研修会に参加した看護師の自己効力感向上に貢献しないが、仕事意欲、とりわけ現在の仕事に関する仕事意欲の向上に寄与するものであった。

1) 研究協力者の概要

研究協力者の概要		(N = 15)	
		n	%
年齢	20歳代	2	13.3
	30歳代	3	20.0
	40歳代	9	60.0
	50歳代	1	6.7
			3
性別	男	3	20.0
	女	12	80.0
職種	看護師	17	100.0
	准看護師	0	0.0
認定資格の有無	有	0	0.0
	無	15	100.0
臨床看護経験年数	5～10年未満	4	26.7
	10～15年未満	3	20.0
	15～20年未満	1	6.7
	20～25年未満	5	33.3
	25年以上	2	13.3
精神科臨床経験	5年未満	1	6.7
	5～10年未満	4	26.7
	10～15年未満	3	20.0
	15～20年未満	1	6.7
	20～25年未満	5	33.3
訪問看護経験年数	25年以上	1	6.7
	5年未満	10	66.7
	5～10年未満	3	20.0
	10～15年未満	1	6.7
	15～20年未満	0	0.0
精神科訪問看護経験年数	20～25年未満	1	6.7
	5年未満	9	60.0
	5～10年未満	5	33.3
	10～15年未満	1	6.7
			12
役職	スタッフ	12	80.0
	主任	2	13.3
雇用形態	所長・総括管理者	1	6.7
	正規	12	80.0
	非正規	3	20.0
最終学歴	専門学校	14	93.3
	短期大学	1	6.7
医療機関の併設状況	病院併設型	13	86.7
	単独型	2	13.3
一般(身体科)訪問看護の実施状況	行っている	2	13.3
	行っていない	13	86.7

2) 有用性の検討

各尺度の3時点における得点の変化 ($n = 15$)

	時期	平均	SD	ANOVA		多重比較	
				F	p		
自己効力感 (GSES) 合計得点	1回目	6.90	4.30	0.49	0.62		
	2回目	6.40	4.50				
	3回目	6.50	3.90				
仕事意欲	合計得点	1回目	56.90	3.44	0.46		
		2回目	56.00				5.90
		3回目	59.70				6.40
現在の仕事	1回目	37.10	4.90	4.37	0.22		
	2回目	36.20	5.10				
	3回目	39.10	5.10				
将来的な仕事	1回目	19.90	2.40	1.02	0.38		
	2回目	19.80	2.00				
	3回目	20.60	2.30				

ANOVA: 反復測定による一元配置分散分析、多重比較 : Bonferroni

* $p < 0.05$

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計4件（うち査読付論文 4件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 2件）

1. 著者名 松田光信、河野あゆみ	4. 巻 63
2. 論文標題 地域で暮らす精神障害者が訪問看護に期待する支援	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 病院・地域精神医学	6. 最初と最後の頁 241-246
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 松田光信、河野あゆみ	4. 巻 20
2. 論文標題 Development of a Blended Learning System for Nurses to Learn the Basics of Psychoeducation for Patients with Mental Disorders	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 BMC Nursing	6. 最初と最後の頁 1-10
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1186/s12912-021-00677-1	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 松田 光信、河野 あゆみ	4. 巻 43
2. 論文標題 地域で暮らす精神障害者の視座による訪問看護の支援内容とその価値	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 日本看護研究学会雑誌	6. 最初と最後の頁 5_835 ~ 5_845
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.15065/jjsnr.20200528092	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 河野 あゆみ、松田 光信	4. 巻 38(8)
2. 論文標題 セラピューティックレクリエーションに参加した統合失調症患者Z氏の他者と交流する意欲の変化	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 日本看護研究学会雑誌	6. 最初と最後の頁 161
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計12件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 3件）

1. 発表者名 佐藤史教、河野あゆみ、松田光信
2. 発表標題 精神科訪問看護師の難しさとさらなる発展に向けた課題
3. 学会等名 日本看護科学学会学術集会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 松田光信、河野あゆみ
2. 発表標題 地域で暮らす精神障害者の視座による訪問看護の支援内容とその価値
3. 学会等名 日本看護研究学会 第46回学術集会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 河野あゆみ、松田光信
2. 発表標題 地域で暮らす精神障害者が抱く訪問看護への期待とリカバリーステージとの関係
3. 学会等名 日本看護研究学会 第46回学術集会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 河野あゆみ、松田光信
2. 発表標題 心理教育セミナーに参加する看護師のレディネスの特徴と関連要因
3. 学会等名 日本看護研究学会 第46回学術集会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 佐藤史教、河野あゆみ、松田光信
2. 発表標題 精神科訪問看護師の看護実践の内容および課題と展望
3. 学会等名 日本看護研究学会 第46回学術集会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 河野あゆみ、松田光信
2. 発表標題 精神科訪問看護の質向上への達成動機づけプログラムの実践的評価
3. 学会等名 第40回日本看護科学学会学術集会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 kohno ayumi & matsuda mitsunobu
2. 発表標題 Characteristics of home-visit psychiatric nursing in Japan 1 - Home-visit nursing activities as recognized by nurses -
3. 学会等名 21th Psychopharmacology Institute and Annual Conferenc (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 matsuda mitsunobu & kohno ayumi
2. 発表標題 Characteristics of home-visit psychiatric nursing in Japan 2 - Problems encountered by nurses in clinical settings
3. 学会等名 21th Psychopharmacology Institute and Annual Conferenc (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Ayumi Kohno, Mitsunobu Matsuda
2. 発表標題 Usefulness of a Blended Learning-based Psychoeducation Practitioner Training Program
3. 学会等名 19th International Mental Health Conference (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 松田光信、河野あゆみ、佐藤史教
2. 発表標題 交流集会3：精神障害者との共生社会の実現を目指す看護の姿勢～精神医療における心理教育の実践から～
3. 学会等名 日本看護研究学会 第44回学術集会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 松田光信、河野あゆみ、佐藤史
2. 発表標題 共生社会の構築を支える心理教育の姿勢
3. 学会等名 日本精神保健看護学会代28回学術集会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 松田光信、河野あゆみ、檜垣孝文
2. 発表標題 心の病をもつ人々の暮らしを支える心理教育のちから
3. 学会等名 第2回ひ乃木産学連携地域支援事業
4. 発表年 2018年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	河野 あゆみ (Kohno Ayumi) (20401961)	大阪公立大学・大学院看護学研究科・准教授 (24405)	
研究分担者	佐藤 史教 (Sato Fuminori) (20554976)	岩手県立大学・看護学部・講師 (21201)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------